



寺報

2013年(平成25年)

No. 213

8月号

Zenkyo-ji monthly
Communications Paper
En [えん]

縁



『親鸞聖人御鎮座の石』 善教寺「石」シリーズ その7
親鸞聖人御誕生800年を記念して、昭和49年11月に建碑しました。

楽しい仏教用語

その25

【苦行（くぎょう）】

釈迦苦行像、目は落ちくぼみ、瘦せ衰え、あばら骨がむき出しになつた上に、血管が浮き出しているという、何とも迫真の姿はガンダーラ美術の至宝ともいわれています。

お釈迦さまは種々の修行の後、苦行林に入りインド古来の修行である苦行を修められました。心を制御する苦行、呼吸を止め苦行、断食による苦行、減食による苦行を行つたといいます。

過去、現在、未来のどんな修行者も、これより激しい苦行を修めたものはなく、また修めるものもないであろう」と、語つて

【くしゃみ】

くしゃみは「クシヤン」とするからだと思つていましたが、おもしろい話があつたので紹介しましよう。

ある時、お釈迦さまがくしゃみをしました。すると、弟子たちが一齊に「クサンメ」と唱えて、師の健康を願つたということです。何とも微笑ましい話が仏典に書かれていました。

「クサンメ」は、インド語で

「長寿」という意味です。印度では、くしゃみをすると命が縮まるといって、「クサンメ」と唱える風習があつたといいますから、これは長寿を祈る呪文だつたのかも知れません。

このクサンメは「休息万能」

「休息万病」と音写されていました。これを早口で何度も言つてみてください。クサメになりませんか。くしゃみはクサメから転訛したものだそうです。

(辻本敬順氏「仏教用語豆辞典」参照)

おられるほどの壮絶なものでした。そのときの姿を表現したのがこの像です。

大変苦労することを、一般に難行苦行といいますが、お釈迦さまのは並大抵の苦行ではなかつたのです。

住職レター

暑中お見舞い申し上げます。

この異常な毎日の猛暑、しかものうち秋が来ると涼しくなるでしょう。暑い毎日が永遠に続くことはありませんから、

もう少しの辛抱です。

さて先日、中国山脈横断100キロウォーキングに挑戦してきました。

県北の戸河内インター・チエンジをスタートし、ゴールは島根県益田。足の痛み、孤独の辛さ、夜の闇、睡魔、それら全てが自分との格闘。



100キロを歩くという、途方もない無謀なチャレンジを後悔しつつ、ただひたすらゴール(帰着点)を目指して歩き、22時間39分で完歩。過去に、富士山登頂(平成22年7月19日)、土師ダム湖畔マラソン10キロ完走(平成23年11月23日・タイム53分6秒)、



富士山登頂

修行の旅でありました。

全てゴール(帰着点)があるから、登り続け、走り続けることが出来る。

よく人生は旅であるといわれます。浄土真宗の教えは、人生の本当の目的を示し、ゴール(帰着点)を教えています。人生の戈爾(帰着点)は、阿弥陀如来のお淨土。

人生は波乱万丈。辛いこと嬉しいこと泣きたいこと楽しいこと…。それこそ、地図(生き方の指南書)を片手に試行錯誤しながら目的地にたどり着く。

人生において地図(ナビゲーション)の役割が、仏の教えであります。



土師ダム湖畔マラソン10キロ(53分6秒)